

平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（宮城県分）について

1 調査概要

- (1) 調査期間 平成25年4月から7月末まで
 (2) 対象学年 全国の小5男女、中2男女全員（悉皆調査）

表1

	小学校5年生 男・女		中学校2年生 男・女	
	学校数(校)	調査児童数(人)	学校数(校)	調査生徒数(人)
宮城県	399	20,116	203	19,438
全国	20,848	1,087,902	10,500	1,039,921

※（調査方式）悉皆調査：平成20年度、平成21年度、平成25年度
 抽出調査：平成22年度、平成24年度
 （平成23年度は、大震災の発生により、調査は実施されていない）

(3) 調査事項及び内容

① 実技に関する調査…新体力テスト（8種目）

- 1) 握力 2) 上体起こし 3) 長座体前屈 4) 反復横とび 5) 持久走、20m シャトルラン
 6) 50m 走 7) 立ち幅とび 8) ソフトボール投げ、ハンドボール投げ
 ※ 5) について、中2男女はどちらか1種目を選択して行い、小5男女は20m シャトルランを行う。
 ※ 8) について、小5男女はソフトボール投げ、中2男女はハンドボール投げを行う。

② 児童に対する質問紙調査

- 運動習慣、生活習慣等

③ 学校に対する質問紙調査

- 子どもの体力向上に係る学校の取組等

2 結果概要

【実技に関する調査】

- (1) 平成25年度宮城県の体力合計点について ※（ ）は前年度との差

表2

			体力合計点							
			H21	順位	H22	順位	H24	順位	H25	順位
小学校5年生	男子	宮城県	53.82(+0.51)	30	53.46(△0.36)	35	52.92(△0.54)	41	53.11(+0.19)	36
		全国	54.19(+0.01)		54.36(+0.17)		54.07(△0.29)		53.87(△0.20)	
		全国との差	△0.37		△0.90		△1.15		△0.76	
小学校5年生	女子	宮城県	54.58(+0.26)	25	54.30(△0.28)	28	54.24(△0.06)	32	54.10(△0.14)	32
		全国	54.59(△0.25)		54.89(+0.30)		54.85(△0.04)		54.70(△0.15)	
		全国との差	△0.01		△0.59		△0.61		△0.60	
中学校2年生	男子	宮城県	41.95(+0.26)	18	42.14(+0.19)	17	42.13(△0.01)	23	42.13(±0)	19
		全国	41.36(△0.14)		41.71(+0.35)		42.32(+0.61)		41.78(△0.54)	
		全国との差	+0.59		+0.43		△0.19		+0.35	
中学校2年生	女子	宮城県	47.95(△0.36)	24	47.60(△0.35)	30	48.16(+0.56)	27	47.89(△0.27)	29
		全国	47.94(△0.44)		48.14(+0.20)		48.72(+0.58)		48.42(△0.30)	
		全国との差	+0.01		△0.54		△0.56		△0.53	
調査の方式			悉皆		抽出 (小5:18.7%, 中2:18.5%)		抽出 (小5:18.8%, 中2:18.4%)		悉皆	

※順位については、本県教委独自の集計によるもの

- ① 小5男子では、全国平均値は下回っているものの、前年度の数値を上回り、震災前のH22年度の数値に近づいている。
 ② 小5女子では、前年度の数値、全国平均値をともに下回り、若干低下傾向が続いている。
 ③ 中2男子では、前年度の数値と同じであったが、全国平均値を上回った。
 ④ 中2女子では、前年度の数値、全国平均値をともに下回ったものの、震災前のH22年度の数値を上回った。

(2) 各種目の記録

【小学校5年生】

表3

区分 調査種目	男 子				女 子			
	宮城県	全 国	全国との差	順位	宮城県	全 国	全国との差	順位
握力(kg)	16.55	16.63	△ 0.08	31	16.39	16.14	+ 0.25	14
上体起こし(回)	19.39	19.54	△ 0.15	24	18.02	18.06	△ 0.04	24
長座体前屈(cm)	32.83	32.73	+ 0.10	14	36.86	36.87	△ 0.01	15
反復横とび(点)	41.65	41.41	+ 0.24	27	39.33	39.06	+ 0.27	27
20m シャトルラン(回)	48.84	51.41	△ 2.57	38	37.32	39.66	△ 2.34	38
50m 走(秒)	9.54	9.38	△ 0.16	42	9.76	9.64	△ 0.12	44
立ち幅とび(cm)	147.91	152.07	△ 4.16	47	140.80	144.55	△ 3.75	47
ソフトボール投げ(m)	23.56	23.19	+ 0.37	25	13.75	13.94	△ 0.19	39
体力合計点	53.11	53.87	△ 0.76	36	54.10	54.70	△ 0.60	32

① 小5男子では、全国平均値を上回った種目は長座体前屈やソフトボール投げ等で、下回った種目は立ち幅とびや50m走等であった。

② 小5女子では、全国平均値を上回った種目は握力や反復横とびで、下回った種目は立ち幅とびや50m走等であった。

【中学校2年生】

表4

区分 調査種目	男 子				女 子			
	宮城県	全 国	全国との差	順位	宮城県	全 国	全国との差	順位
握力(kg)	29.48	29.21	+ 0.27	22	23.58	23.76	△ 0.18	33
上体起こし(回)	27.85	27.58	+ 0.27	13	23.55	23.03	+ 0.52	10
長座体前屈(cm)	43.56	43.11	+ 0.45	16	45.04	45.12	△ 0.08	22
反復横とび(点)	51.48	51.08	+ 0.40	26	45.31	45.27	+ 0.04	28
持久走(秒)	403.94	393.90	△ 10.04	36	297.95	292.71	△ 5.24	29
20m シャトルラン(回)	82.89	84.98	△ 2.09	39	54.81	57.20	△ 2.39	40
50m 走(秒)	8.02	8.04	+ 0.02	22	8.91	8.88	△ 0.03	31
立ち幅とび(cm)	192.83	193.68	△ 0.85	32	162.98	166.18	△ 3.20	40
ソフトボール投げ(m)	20.59	21.01	△ 0.42	39	12.37	12.97	△ 0.60	44
体力合計点	42.13	41.78	+ 0.35	19	47.89	48.42	△ 0.53	29

① 中2男子では、全国平均値を上回った種目は上体起こしや長座体前屈等で、下回った種目は20mシャトルランやハンドボール投げ等であった。

② 中2女子では、全国平均値を上回った種目は上体起こしや長座体前屈等で、下回った種目はハンドボール投げや20mシャトルラン等であった。

【児童生徒質問紙調査】

(1) 運動やスポーツの実施頻度について ※ () は前年度との差

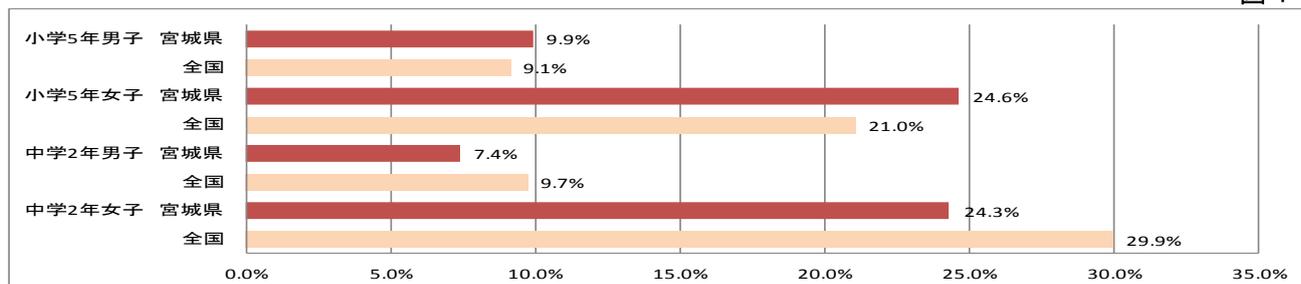
表5

質問項目	性別	小学校5年生 (%)			中学校2年生 (%)		
		H22	H24	H25	H22	H24	H25
「ほとんど毎日 (週に3日以上) している」	男子	60.6(-1.0)	60.0(-0.8)	59.6(+0.4)	88.1(+4.1)	88.3(+3.8)	86.9(+3.1)
	女子	30.9(-4.9)	33.6(-1.9)	30.1(-3.4)	68.7(+7.5)	66.7(+6.1)	68.3(+8.4)

・ほとんど毎日運動している児童生徒の割合は、小5女子を除いて、全国平均値を上回っている。

(2) 1週間の総運動時間が60分に満たない児童生徒（体育・保健体育科の授業を除く）
について

図1

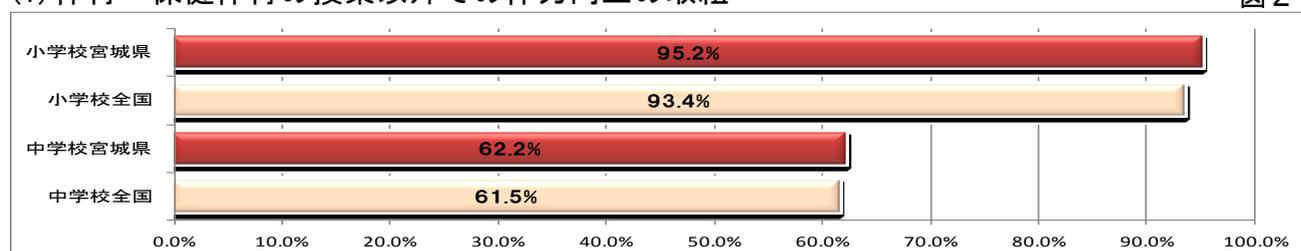


- ① 小5男女では、1週間の総運動時間が60分に満たない児童の割合が全国より多い。
- ② 中2男女では、1週間の総運動時間が60分に満たない生徒の割合が全国より少ない。

【学校質問紙調査】

(1) 体育・保健体育の授業以外での体力向上の取組

図2



- ① 小・中学校とも体育の授業以外で体力向上へ取り組む割合が全国よりも本県の方が高い。
- ② 本県、全国ともに、中学校より小学校の方が体育の授業以外での体力向上への取組が高い割合で行われている。

3 体力・運動能力向上に関する取組

(1) 県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会での研究協議

3圏域毎(県北・県央・県南)と全体会の計4回の会議の中で、全市町村教育委員会と子どもの体力・運動能力に関して情報の共有化を図るとともに、その向上策について研究協議を行った。

(2) 「体力・運動能力向上に関する講習会」の開催

子どもの体力・運動能力の向上施策や、運動実技等について県内小学校体育主任等の教員を対象として講習会を開催した。併せて、開催の時期を今年度から各学校での体力調査実施前の年度当初に変更した。

(3) 「宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査報告書(県教委作成)」の内容の充実

文部科学省の調査とは別に、全校種・全学年児童生徒悉皆で本県独自に調査を実施し、種目及び教育事務所毎の経年変化グラフ等により、現状の把握・分析に努めている。

(4) 「小・中・高等学校体力・運動能力調査報告書(各学校作成)」様式の変更・改善

(3)の調査に併せて、これまでの報告様式を、各学校が現状把握、課題抽出、目標設定、今後の対策を記載する様式に変更し、各学校での具体的な取り組みを促した。

(5) 「体力・運動能力向上出前研修会」の実施

教育事務所ごとに、管内小学校において、特に体育の指導に優れた教員2名を指導教員として指定し、希望学校に出向き、運動事例を紹介するとともに、「みやぎっ子！元気アップエクササイズ」等の指導をとおして体力向上を図る研修会を開催した。

(6) 「元気アップみやぎっ子！『web』長なわ八の字跳び大会」の実施予定

子どもたちの運動機会の創出や運動の習慣付けができるよう、被災地等の運動制限のある場所でも手軽にできる「長なわ八の字跳び(予定)」を各学校で行い、インターネット上で記録を競う大会を実施する。



えが
一緒に描く、みやぎの未来。



平成27年度 宮城県・仙台市

公立学校教員募集案内

宮城県教育委員会・仙台市教育委員会

みやぎの教育

宮城県・仙台市では、「志教育」、「仙台自分づくり教育」に取り組んでいます。



宮城県 ～みやぎの「志教育」～

みやぎの「志教育」とは

小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育です。(みやぎの「志教育」は、平成22年3月に策定された「宮城県教育振興基本計画」において、重点的に取り組むべき施策の一つとして掲げられています。)

「志教育」3つの視点 (この3つの視点に基づき、各学校で計画を立案し実践しています。)

人と『かかわる』

様々な人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる。集団や組織の中で、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。

よりよい生き方を『もとめる』

学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる。社会において役割を果たす人間として、自らの在り方生き方について主体的に探求させる。

社会での役割を『はたす』

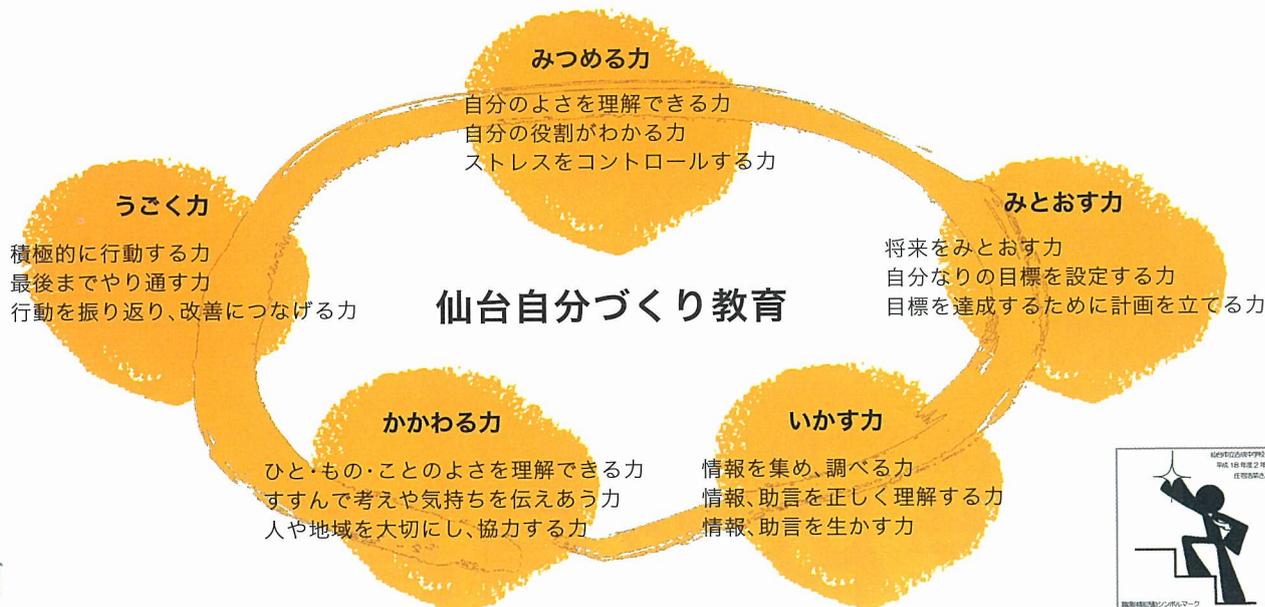
集団や組織の中で、自分の果たすべき役割を認識させる。自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める。

仙台市 ～「仙台自分づくり教育」～

「仙台自分づくり教育」とは

児童生徒一人一人が、確かな学力の向上を図るとともに、人とのかかわりを大切にしながら、将来の社会的、職業的自立をめざして、必要な態度や能力をはぐくみ、社会人としてより充実した生き方を切り拓いていくことを目的とした教育です。(仙台市教育委員会では、この「仙台自分づくり教育」を最重点事項として教育施策に位置づけています。)

身に付けさせたい能力と具体的な視点



みやぎの教員に求められる資質・能力

みやぎの教員に求められる資質や能力は、教員個人による自己研鑽と職場での各種研修によって、より確かなものにすることが期待されています。

学校の教育力を構成する実践力

子ども理解

授業力

- 「わかる授業」ができ、子どもが「できるようになる」指導ができること
- 子どもたちに学ぶ楽しさを感じさせることができ、学ぶ力や学ぼうとする力をも身につけさせること

- 習熟度や生活面等に関する子どもの実態を的確に把握でき、それに応じた適切な指導ができること
- 子どもと共感的コミュニケーションがとれ、信頼関係を構築できること

生徒指導力

- 社会性をはぐくむための適切な生活指導・生徒指導ができること
- 適切な学級経営ができ、快適な学びの環境を確立できること

学校を支える力

- 校長、教頭や他の教職員と協力しながら、学びの場としての学校を組織的に支えられること
- 学校の教育目標を共有し、その実現に向けて自分の役割を果たせること
- 協調性を持ち、教職員や保護者等と適切なコミュニケーションがとれること
- 校務を効率的にこなすとともに、常に改善を図っていけること

実践力の基盤となる意欲・人間性等

教育への情熱

- 子どもに対する愛情を持ち、子どもの成長に喜びを感じられること
- 教員としての「使命感」を持ち、子どもに範を示す意識を持っていること
- 「積極性」や「粘り強さ」を備え、子どものために惜しみない支援をしていけること

自己研鑽力

- 授業力・生徒指導力等について、「常に学び続ける」という謙虚な気持ちを持ち続け、自己研鑽を継続できること
- 自分の目標や憧れる理想像をしっかりと持ち、それに向かって努力し続けることができること
- 他人の意見を謙虚に受け止め、自分を客観的に評価することができ、それらを自らの向上に繋げられること

たくましく豊かな人間性

- 広い教養を備え、子どもや他の職員から好かれる「魅力的な人柄」であること
- 心身の健康を保つ自己管理ができること
- 社会人・公務員としての「規範意識」や組織の一員として求められる「責任感」を備えていること
- 自信の源となる専門分野・得意分野を持っていること

ともにみやぎの教育の復興を

～子どもたちの未来のために～

あの東日本大震災から、約3年。全国から寄せられた多くの支援を受け、宮城県・仙台市は少しずつ復興しつつあります。学校においても、子どもたちの笑顔が戻ってきています。

ふるさとみやぎの復興のためには、次代を担う子どもたちの教育がなによりも重要です。

子どもたち一人一人の心をはぐくみ、夢ある未来への道筋を拓くため、宮城県と仙台市の教員は希望を胸に日々教育活動に励んでいます。あなたも、宮城県・仙台市の教員として、ともに子どもたちの未来をはぐくみませんか。

復興に向けた取組

「子供達の未来へ」

東日本大震災の大津波により瓦礫の山と化した雄勝の町を初めて見たときは、言葉では言い表せないほどの衝撃でした。途方に暮れる私たち教職員の気持ちを奮い立たせてくれたのは、全員無事でいてくれた生徒たちの笑顔でした。「無事でいてくれてありがとう」という生徒への思いがゼロからのスタートを勢いあるものにしてくれました。家や思い出までも失ってしまった生徒たちに私たちがやらなければならないこと。それは、将来への希望を持たせることでした。教職員自ら視野を広げ、関係機関や団体、地域との連携を図りながら様々な教育活動を行ってきました。生徒たちはそれに応え、学習や諸活動に真剣に取り組んでくれました。特に全校で取り組んだ地域の伝統芸能である太鼓では、海外公演の機会もいただき、生徒の自信に繋がりました。震災から2年半が過ぎ、逆境を乗り越え、生徒たちが未来に向かって生きていく土台となるものを多く得てきた今、この土台は「生き方への自覚」を促し「学習する意欲」を確実にはぐくんでいます。これから受験するみなさん、夢と希望に溢れ「たくましく生きる」宮城の子どもたちと一緒に育てていきましょう！



佐々木 裕
石巻市立雄勝中学校
教諭



小野寺 文男
気仙沼向洋高等学校
主幹教諭

「ともに頑張ろう」

東日本大震災で私が勤務していた高校は甚大な被害を受け、私達を取り巻く学習環境は一変しました。当時は、学習するどころか生きていくことがやっとで、今後どうなるのだろうという不安ばかりが募る毎日でした。しかしそんな状況下でありながらも、笑顔を絶やさず登校してくる子どもたちの姿に、何度となく救われました。そして、子どもたちが発する「先生」という呼びかけの重さに、改めて教師としての使命感や責任感を痛感しました。究極の苦しい場面でありながら、子どもたちは他者を思いやり、自ら考え、協力してこの苦しい状況を乗り切りろうとしました。まさに「生きる力」が発揮され、子どもたちの真の姿を垣間見た瞬間でした。しかしながら震災から3年が経過した今でも、宮城の復興には終わりが見えてきません。そんな中、ダイヤの原石とも言える子どもたちが光りを放つためには、豊かな人間性や教育への情熱を持った皆さんの力が必要不可欠となります。大変なことも多いですが、それ以上にやり甲斐も感じられるのが教師という職業です。宮城の復興に向けて、教育面から子どもたちとともに頑張ってみませんか。

「学べる喜びが、生きる希望に」

あの震災からもうすぐ3年が経過しますが、その爪痕は未だ子どもたちの心に深く残っています。しかし、子どもたちはとても明るく、学校には笑顔があふれています。なぜなら、それは友達がいる、ともに学べる喜びがそこにあるからです。震災を通じて、子どもたちはこの当り前の大切さを学ぶことができました。今、その子どもたちに、私が教師としてやらなければならないことは、安心して過ごせる学級づくりです。その中で、子どもたちは自分や友達が、かけがえのない存在なのだ気付くことができると思います。しっかり生きていこうという前向きな気持ちを養うことができるような授業、達成感を味わえるような活動、これらを心がけることで、子どもたちは楽しく学校に来ることができると思います。子どもたちが元気になることは地域を明るくし、気仙沼の未来を築き上げることにつながると私は信じています。教師はそういった意味でやりがいのある職業です。今夢に向かってる皆さん、ぜひ子どもたちに学ぶ喜びを教えてください。



村上 美和
気仙沼市立松岩小学校
教諭

先輩からのメッセージ

新人教員としての夢、展望 (すべて平成25年度採用)



佐藤 徹
岩ヶ崎高等学校
教諭



「人のために」

「人のためにになりたい」という漠然とした思いの中、教師になりたいと思った小学生時代。中学、高校と一日の大半を過ごした学校での時間や多くの先生方からの指導なくして今の自分はない、自分もその学校現場での仕事の一端を担いたいと強く思い始めたのは、周りの友人が就職活動を始めた大学時代だったと記憶しています。私にとって授業時間が一番楽しい時です。実際に仕事が始まり、今までに経験したことのない連続で力不足を感じてばかりですが、生徒たちの物事に真剣に取り組む姿や楽しそうな笑顔、生徒の日々の成長を見て感じる事ができた時ほど嬉しいことはありません。それを求めるうちに自分自身の教師としての力量、能力の向上が重要であることに気がきました。できること、やれることを増やすために、自分が成長することこそが「人(生徒)のためになる」のだと思い精進しています。採用試験に向けたあらゆる取り組みは必ず生徒のために繋がります。一緒に頑張りましょう。

「一人ではできない仕事」

私は、小学校の頃から「学校の先生」という職業に憧れがありました。大学時代、教育実習へ行ってから、その憧れは目標に変わり、現実となりました。教師になってからの毎日は、初めてのことばかりでした。初めての家庭訪問、初めての授業参観、初めての通信表…。この間まで学生だった自分が、教師として子どもたちを任される立場になることの責任の重さを感じました。しかし、今一番感じているのは、この仕事は一人では絶対にできないということです。困った時にいつも丁寧に教えてくださる同僚の先生方や温かく見守ってくださる保護者の方々、そして何より、何事にも一生懸命に取り組む子どもたちに助けられて、毎日頑張ることができています。子どもたちは、日々成長します。失敗をすることがあっても、次の時にはそれを生かして前向きに取り組む子どもたちから、私自身学ぶことが多いです。今後も、子どもたち一人一人の長所を認めて、伸ばしてあげられる教師になっていきたいです。これから受験される皆さんも、子どもが好きなならば、ぜひ自信をもって頑張ってください。応援しています。



渡邊 愛美
利府町立しらかし台小学校
教諭



高橋 絵里香
仙台市立根白石中学校
教諭



「ともに成長する」

小学生の頃から、勉強することやいろんなことを経験できる学校が好きで、「先生になれたらなあ。」と思っていました。学校は、毎日新しい発見がいっぱいで素敵な宝箱のようでした。念願がかなない教員となって半年が経ちますが、今でも勉強の毎日です。子どもの数だけ指導法があり、教えることの難しさを実感しています。しかし、子どもたちとともに悩み、ともに考え、ともに未来を見つめることで、自分も子どもとともに成長しているのだと強く感じています。採用試験になかなか合格することができずに落ち込む時期もありましたが、あきらめず教員を目指すことができたのは、自分も新しい発見や驚きを与えたい、学校で働きたいという強い思いと、同じ教員を目指す仲間や職場の先生方からの励ましがあつたからです。現在も、周囲の人々に支えていただきながら教員として過ごしています。これからも、常に学び続ける姿勢を持ち、情熱を持って子どもと接していきたいです。

「子どもたちの笑顔のために」

高校生の頃、悩みを抱えていた私の話を親身になって聞き、そっと背中を押してくれたのが養護の先生でした。私も困っている子どもたちの支えになることができたらいいなと思ったことが、養護教諭を目指すきっかけとなりました。宮城県の養護教諭として働き始めて半年が経ちます。忙しい毎日ですが、学びを得ない日は1日ありません。保健室での子どもたちとの関わりや、周りの先生方からたくさんを学び、充実した毎日を過ごしています。うまくいかない日もありますが、子どもたちの心身の課題解決に向け、一人一人の気持ちに寄り添った支援や指導のできる養護教諭になりたいです。養護教諭を目指している皆さん、諦めずに努力すれば必ず夢は叶います。たくさんの子供たちが皆さんを待っていますよ。応援しています。



諏訪部 祥
石巻市立向陽小学校
養護教諭



教員採用選考の概要

平成25年度に実施した選考内容の概要です。

平成26年度実施の選考内容については、平成26年4月に公表される選考要項で確認してください。

(1)採用校種・教科等

小学校教諭、中学校教諭(国語、社会、数学、理科、技術、英語)、中・高教諭(保体、音楽、美術、家庭)、
高校教諭(国語、地歴、公民、数学、理科、農業、水産、工業、商業、英語、看護、福祉)、養護教諭、栄養教諭

(2)選考内容

①一般選考

- 第1次選考 筆記試験1: 専門教養—各校種、各教科科目に関する専門分野
筆記試験2: 教職教養—教員として必要な教養に関する分野(*)
実技試験: 小学校—水泳、ボール運動
保体—水泳、陸上競技、器械運動、ダンス、球技(バレー・バスケから選択)、武道(柔道・剣道から選択)
音楽—ピアノ、歌唱、および楽器または歌唱 美術—デザイン表現

*なお、所定の要件に該当する者については、筆記試験2において、「教職教養」を「小論文」に替えて出願することができます。
(所定の要件の例:出願時に宮城県内で講師等の職に就いており、この3年間の間に、常勤講師歴(又は非常勤講師歴)が12月以上ある者。)

- 第2次選考 模擬授業: 授業前に示された課題内容(教科書等の教材の数ページを指定する等)により指導案(一単位時間分の略案A4版1枚程度)を作成し(作成時間50分程度)、それをもとに指導案の一部について模擬授業(授業時間15分程度)を行う。授業後に試験官からの質疑に答える。
個人面接1: 民間人を含む複数の面接委員による面接を行う。
個人面接2: 複数の面接委員による面接を行う。
実技試験: 小学校—ピアノ、マット運動 英語—示された資料の朗読及び英語による面接
家庭—被服製作、調理実習 福祉—介護実習
適性検査

②教職経験者特別選考(所定の出願要件に該当する者*)

*所定の出願要件(平成25年度実施の場合)
出願時に宮城県内で講師等の職に就いており、この5年間の間に常勤講師歴が通算24月以上ある者。または、出願時に学校教育法第1条に定められた学校の教員として継続して24月以上就いている者。(ただし、栄養教諭Aの受験者は対象外。)

- 第1次選考 筆記試験1: 一般選考に同じ
集団面接: 数人1組による集団面接
実技試験: 一般選考に同じ
第2次選考 一般選考に同じ

③障害者特別選考(所定の出願要件に該当する者*)

*所定の出願要件(平成25年度実施の場合)
身体障害者手帳の交付を受け、その障害の程度が1級から6級までの者で、かつ自力による通勤及び職務遂行が可能な者。選考内容は、原則として一般選考と同様に行うが、障害の種類や程度に応じて、実技試験の一部免除等を行う。



過去の選考結果

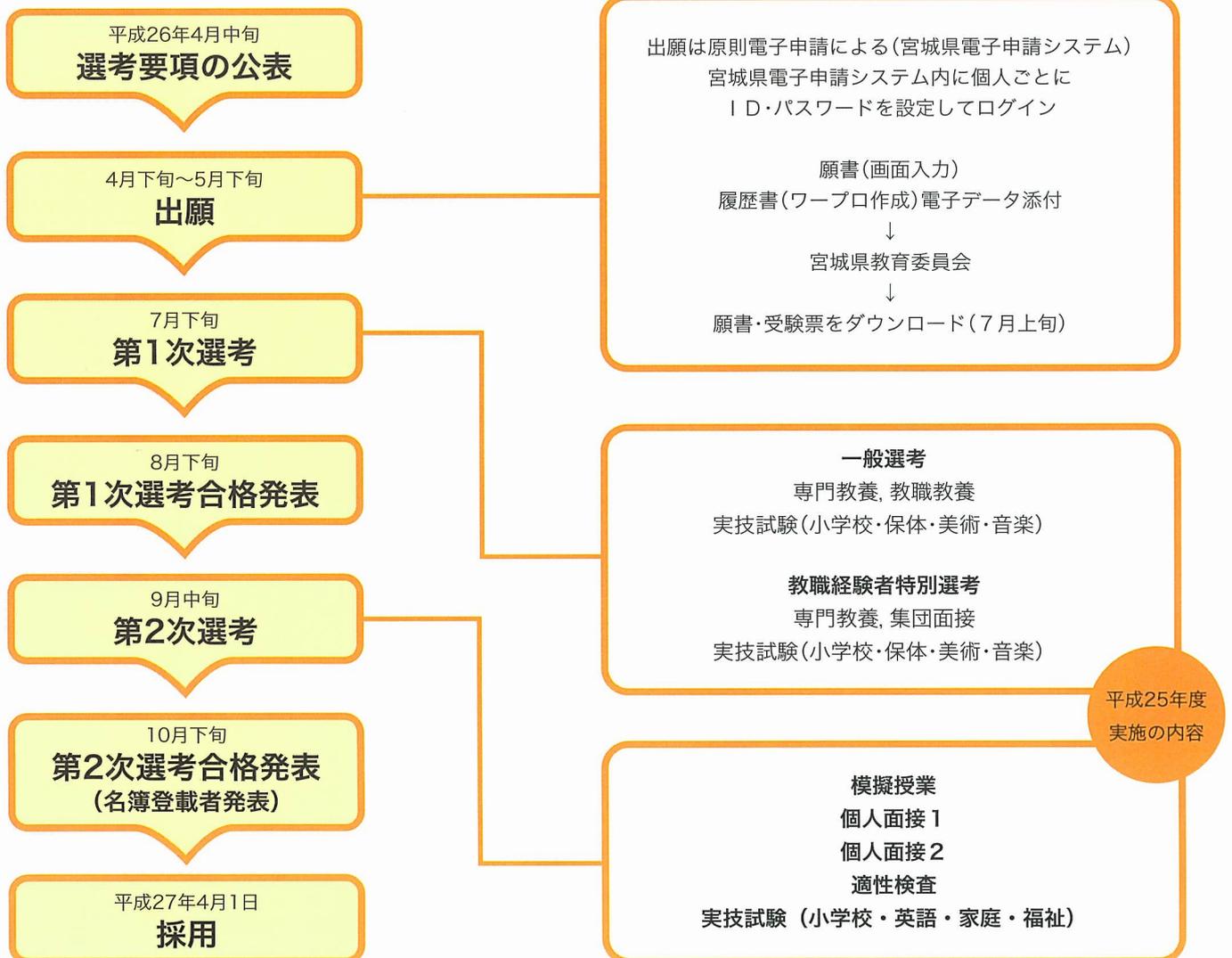
平成26年度選考(平成25年度実施)の結果

	小学校	中学校							中学校・高等学校				
		国語	社会	数学	理科	技術	英語	計	保体	音楽	美術	家庭	計
1次受験者	1,080	117	260	180	108	28	221	914	329	85	75	51	540
2次受験者	519	48	43	56	54	13	53	267	69	21	22	12	124
名簿登載者	271	23	23	29	27	6	31	139	30	11	12	4	57

	高等学校													養護 教諭	栄養 教A	栄養 教B	合計
	国語	公民	地理	数学	理科	農業	水産	工業	商業	英語	看護	福祉	計				
1次受験者	79	52	100	107	111	16	1	48	45	93	1	10	663	232	11	31	3,471
2次受験者	29	12	24	42	39	9	1	23	12	26	1	4	222	43	6	6	1,187
名簿登載者	15	3	6	22	11	3	1	6	5	15	1	3	91	21	1	1	581

平成27年度 宮城県・仙台市 公立学校教員採用候補者選考

出願から採用までのスケジュール



Q&A

Q. 教員採用選考試験関係の情報はどのようにしたら手に入れることができますか？

A. 宮城県教育庁教職員課のホームページをご覧ください。最新の情報をご覧ください。
(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/>)

Q. 出願方法について教えてください！

A. 出願は原則として電子申請で行います。宮城県教育庁教職員課のホームページから「電子申請・届出メニュー」画面に入り出願することができます。また、インターネットに接続できないなど、電子申請が困難な場合は「書面による申請」も可能です。宮城県教育庁教職員課にご連絡ください。

Q. 宮城県外で試験を受けられるのですか？

A. 第1次選考は、東京会場で受験することができます。受験可能な校種・教科については選考要項で確認してください。

Q. 勤務地は希望できるのですか？

A. 小中学校の受験者には、宮城県と仙台市のいずれを希望するかについて第2次選考時に調査します。ただし、全体を考慮しての勤務地決定となることから採用時に希望どおりになるとは限りません。

Q. 採用後の研修について教えてください！

A. 学校生活での不安解消の他、実践的指導力や使命感を養うために、初任者に対して研修を行っています。その他、5年、10年経験者や教科・領域等の研修などスキルアップのため様々な研修があります。

Q. 福利厚生はどうなっていますか？

A. 採用と同時に公立学校共済組合員となり、健康保険・年金制度はもちろん、次のような制度を利用できます。
給付制度：病気、災害、結婚、出産時の給付金が受けられます。
貸付制度：一般、教育、住宅、結婚等の貸付が受けられます。
検診制度：人間ドックや各種がん検診を受診できます。
その他、健康づくりのためのセミナーなど各種事業があります。

Q. 採用後の給与について教えてください！

区分	小・中学校	県立高校・県立特別支援学校
大学院卒	221,900円	221,900円
大学卒	199,700円	199,700円
短大卒	177,200円	174,700円

(平成25年4月1日現在)

前歴加算 民間企業における職歴がある場合には、この初任給に一定の基準による加算があります。
諸手当 教職調整額、義務教育等教職特別手当、扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、期末・勤勉手当などがそれぞれの要件により支給されます。

Q. 講師として働きたいのですが、どのようにすればよろしいですか？

A. 教員免許状があれば、所有する免許状に応じて小・中・高・特別支援学校の講師として働くことができます。常勤講師は、欠員、産前・産後休暇、育児休業、病気休暇などにより補充が必要となったとき、その代替者として勤務します。非常勤講師は、特定の時間のみ勤務するもので、時間給が支給されます。講師の任用希望は、電子申請または書面で随時受け付けておりますので、宮城県教職員課または仙台市教職員課までお問い合わせください。

問い合わせ先

宮城県教育委員会 教育庁教職員課

〒980-8423仙台市青葉区本町三丁目8番1号
Tel(022)-211-3637
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ky-teacher/>

仙台市教育委員会 教育局学校教育部教職員課

〒980-0811仙台市青葉区一番町4-1-25東二番丁スクエア
Tel(022)-214-8873
<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/>

このパンフレットは東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 篠原研究室の協力を得て編集しました。

編集スタッフ: 伊藤瑞希 熊谷夏菜 豊岡円 菅田耕平 中村知里 武川大城 金相憲 渡邊志織 宮本瑞生 (篠原研究室HP <http://www.shinolab.com/>)



子どもと本をつなぐ人たちのネットワークフォーラム

親子で楽しむ！
子どもと本の架け橋ひろば

みやぎから元気発信！子どもと本の架け橋に

地域や学校など様々な場で、子どもの読書活動に携わる人たちのネットワークづくりのきっかけとなることを目指します。

日程

平成 26 年 1 月 25 日(土) 10:00 ~ 16:15

会場

宮城県庁 講堂(2F)・ロビー(1F)ほか(仙台市青葉区本町3-8-1)

対象

- ①子どもと本をつなぐ人たちのネットワークフォーラム(講堂ほか)
子どもの読書活動に携わっているボランティア、学生、図書館・公民館等職員、教員、保育所・幼稚園等職員、児童館職員、行政関係者など200名程度(事前申込要)。
- ②子どもと本の架け橋ひろば(ロビー)
どなたでも自由にご参加いただけます(申込不要)。

プログラム予定

- 10:00 開会
- 10:10 ●講演
- 11:20 ●トークセッション
- 12:30 子どもと本の架け橋ひろば
(15:30まで)
- 14:00 交流セッションⅠ(分科会)
- (1)「子どもにおはなしを～ストーリーテリング～」
山田仁子氏(おはなしてんとうむし代表)
- (2)「紙芝居を演じることから広がる世界」
ときわひろみ氏(みやぎ紙芝居の会代表)
- (3)「今こそ、わらべうたを」
金子きくえ氏(宮城わらべうたの会代表)
- (4)「絵本の世界と読み聞かせ」
松本弘美氏(角田市学校図書館支援員)
- (5)「手作りおもちゃ・おはなしの小道具」
芳賀哲氏(仙台青葉学院短期大学講師)
- 15:40 交流セッションⅡ(全体会)
- 16:15 閉会

講演



◎テーマ「読むことは生きること
——子どもたちの未来のために——」

講師：河西由美子氏(玉川大学通信教育部 教育学部准教授)

○プロフィール：博士(学際情報学)。専門は学校図書館、子どもの情報行動等。東日本大震災直後から「被災地の子どもたちに届けたい本」のリストを Web 上で制作・公開し、本の寄贈や学校図書館調査等に取り組みされました。著作に「震災と子ども読書・学校図書館支援」(2012年)、デジタル教材『まかせて！学校図書館』(2013年)監修等。国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究会」委員(2011～2012年度)。

トークセッション

◎テーマ「子どもと本をつなぐ人たちのネットワークづくり
——図書館と家庭文庫の取組とこれから——」

●コーディネーター



高梨富佐氏
(東北福祉大学社会教育学科講師)

○プロフィール：元美里町図書館司書。勤務した旧小牛田町図書館は2002年に、美里町南郷図書館は2010年に文部科学大臣「子どもの読書活動推進優秀実践図書館」表彰を受けました。

●パネリスト

河西由美子氏(玉川大学通信教育部 教育学部准教授)



●パネリスト
柴崎悦子氏
(名取市図書館長)

○プロフィール：司書。東日本大震災で被災した図書館の復興と読書環境整備を進め、「学校図書館支援センター」を設立(2013年)。支援の絆から新たなネットワークづくりに取り組んでいます。



●パネリスト
川端英子氏
(のぞみ文庫主宰・みやぎ親子子ども読書をすすめる会顧問)

○プロフィール：自宅の文庫で43年間おはなし会を開き、「仙台手をつなぐ文庫の会」等、関係者の連携に取り組んでいます。文部科学大臣「子どもの読書活動優秀実践者」表彰(2012年)を受けました。

■参加ご希望の方は参加申込書(裏面)をFAXまたは郵送でお送り願います。先着順ですので定員になり次第締め切りとなります。

みやぎ子ども読書活動推進ネットワークフォーラム 2014

参加申込書 FAX 022-211-3697 (宮城県教育庁生涯学習課)

郵送先 〒980-8423 仙台市青葉区本町3-8-1 宮城県教育庁生涯学習課生涯学習振興班

※ 申込締切 平成25年12月27日(金) 必着

参加ご希望の方はこの用紙に必要事項をご記入の上、宮城県教育庁生涯学習課あて、FAX または郵送でお送りください。応募多数の場合は、先着順とさせていただきます。参加証は、平成26年1月15日(水)までに郵送します。ご参加いただけない方には、参加証はお送りいたしませんので予めご了承ください。

参加申込書の記入にあたってのお願い

交流セッションⅠ(分科会)について — テーマ「子どもと本をつなぐ仲間をつくろう、広げよう」—

下記のテーマで分科会を開き、講師による実演と講義、参加者による意見交換と交流を行います。様々な場で子どもの読書活動に携わっている人たちが交流できる機会とするために、グループ編制を行いますので、下記事項についてご記入をお願いします。

(1) 分科会では活発な意見交換ができるよう「参加者名簿」を配布します。名簿の掲載予定内容は下記のとおりです。各内容ごとに、掲載に同意する、同意しないにを記入してください。

(2) 第1希望・第2希望・第3希望の欄にを付けてください。ご参加いただく分科会は、事務局で調整させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

参 加 申 込			分科会「参加者名簿」		
			掲載内容	参加者名簿に掲載することの同意	
フリガナ			氏 名	<input type="checkbox"/> 同意する	<input type="checkbox"/> 同意しない
氏 名			市町村名	<input type="checkbox"/> 同意する	<input type="checkbox"/> 同意しない
住 所	〒		—	—	—
連絡先	TEL	FAX	—	—	—
所 属	該当するものを○で囲んでください。 家庭文庫、読み聞かせボランティアなど(活動歴 年)、学校、保育所、幼稚園、 児童館、図書館、公民館、行政、学生、書店、その他()		所 属	<input type="checkbox"/> 同意する	<input type="checkbox"/> 同意しない
	所属先の名称()		名 称	<input type="checkbox"/> 同意する	<input type="checkbox"/> 同意しない
参加申込	日 程	プログラム	参加申込/○印記入欄		
	10:00~12:30	講演・トークセッション			
	14:00~16:15	交流セッション(分科会・全体会)			
	分科会	テーマ	参加希望/○印記入欄		
			第1希望	第2希望	第3希望
	第1分科会	子どもにおはなしを～ストーリーテリング～			
	第2分科会	紙芝居を演じることから広がる世界			
第3分科会	今こそ、わらべうたを				
第4分科会	絵本の世界と読み聞かせ				
第5分科会	手作りおもちゃ・おはなしの小道具				

子どもと本の架け橋ひろば

■ と き / 平成26年1月25日(土) 12:30~15:30

■ と ころ / 宮城県庁 1Fロビー ポスターセッション&おはなし会



親子で楽しむ! おはなし会

絵本の読み聞かせ、人形劇、紙芝居、手遊び、わらべうたなど。



ポスターセッション・展示

子ども読書ボランティアグループの活動紹介、布絵本、子どもの本の展示など。

主 催 宮城県教育委員会 [お問い合わせ先] 宮城県教育庁生涯学習課 TEL 022-211-3652